

## 編 輯 後 記

- 目を外に開けば、南ベトナムの戦乱いよいよ終末の様相を呈し、民族団結の力偉大なるを、いまさらのごとく痛感する。

同じく内を顧みれば、緩やかなる不況、しだいに中小企業を絞めあぐるの感あり。

さらに耳もとでは、諸物価・公共料金値上げの声しきり。庶民の生活ますます苦しさを増すのみ。

- さきに「期待される人間像」案発表せられ、再び忠孝思想の復活を見る。戦前、絨筆・絨口の禍を受けた者おとし。
- 本学付属4研究所連絡協議会当番の今年度、各研究所規定の調整・研究活動充実案などに協議を重ね。

マスプロ教育拡大傾向の中で、忘却されがちな研究機関。その充実計画は、次の当番研究所へバトンタッチ。

- 64年12月3日、当研究所第2回公開研究

報告会を開催。彙報収録のごとく、堀井令以知・森靖雄両所員が研究を発表した。

- 本年度から社会学専攻の後藤和夫・中田実両所員を迎えた。新しい所員活動が期待される。

- 本輯執筆各位の現職は下記のとおり。

久曾神 昇（所長。本学文学部教授）

夏目 隆文（所員。静岡三ヶ日高校講師）

鈴木 泰山（所員。本学文学部教授）

近藤 恒次（所員。愛知時習館高校教諭）

歌川 学（所員。本学文学部教授）

堀井令以知（所員。本学文学部教授）

- 先年来、川越淳二所員を団長として調査研究にあたっている、文部省科学研究助成「志摩漁村総合学術調査団」は、本年3月末頃、前掲予告のようにその一部をまとめて報告する。今後の研究にもいっそう期待したい。（Y. M.）

### 愛知大学総合郷土研究所紀要 第10輯

昭和40年1月31日 発行

〔非 売 品〕

編輯者代表 久 曾 神 昇

豊橋市町畑町

印 刷 所 基督教印刷株式会社

豊橋市町畑町

発 行 所 愛知大学総合郷土研究所